

平成 2 9 年度

森林環境交付金事業成果報告会

～市町村が進める森林づくり～

発表概要

日時 平成 3 0 年 1 月 1 2 日（金） 1 0 時 3 0 分～1 4 時 3 0 分

会場 コミュタン福島 ホール

平成29年度森林環境交付金事業成果報告会 発表プログラム

平成30年1月12日(金)
 コミュタン福島(環境創造センター 交流棟) ホール

	時間	発表タイトル	発表者
1	10:35 ~10:55	森林環境交付金事業の概要	福島県森林計画課 主査 油井 竜太
2	10:55 ~11:15	古殿町における森林認証の取組について	古殿町産業振興課 林政係長 長岡 達己
3	11:15 ~11:35	木育推進事業(ウッズスタート)について	国見町産業振興課 課長補佐兼係長 実沢 隆之
4	11:35 ~11:55	新地町における森林環境交付金事業を活用した 森林環境学習の取組について	新地町農林水産課 主事 阿部 哲也
	12:00 ~13:00	(昼休憩)	
5	13:00 ~13:20	いわき市における 森林環境学習の取組内容について	いわき市教育委員会学校教育課 主任主査 大井川 英敏
6	13:20 ~13:40	森林環境交付金事業(重点枠)を活用した 木造集会施設の整備について	白河市農林整備課 副主査 矢吹 護
7	13:40 ~14:00	ヤマザクラ1万本の里づくり事業	南会津町農林課 主事 赤松 了太
8	14:00 ~14:20	会津・漆の芸術祭	会津若松市教育委員会文化課 主査 佐藤 崇

森林環境交付金事業の概要

福島県森林計画課 主査 油井 竜太

本県の森林環境税は、「森林環境の保全」及び「森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成」を基本目標に平成18年度から導入し、森林環境の適正な保全や市町村が行う森林づくり等の推進、森林環境学習の推進や森林ボランティア活動の支援による県民参画の推進などに取り組んできた。

市町村が行う森林づくり等の推進では、市町村が独自性を発揮して創意工夫を凝らした事業を展開することができるよう、市町村に対して森林環境基金の一部を交付している（森林環境交付金事業）。

今回は、市町村で実施している森林環境交付金事業の概要について説明するとともに、これまでの取り組み実績等について報告したい。

表. 森林環境交付金の事業区分

1 森林環境基本枠

- | | |
|------------|------------------------------------|
| ①県民参画の推進 | 地域住民の関心を高め森林づくりへの参画を促進する事業 |
| ②森林の適正管理推進 | 森林の適正管理につながる事業 |
| ③森林環境学習の推進 | 小学校、中学校、及び義務教育学校の児童・生徒を対象にした森林環境学習 |
| ④森林整備の推進 | 住民参画による森林と人との共生又は地域課題の対応につながる森林の整備 |

2 地域提案重点枠

- | | |
|----------------|---|
| ①県産材の利活用推進 | 市町村有施設、学校、集会所など公共施設における県産木材の利活用 |
| ②木質バイオマスの利活用推進 | 市町村有施設、学校、集会所など公共施設におけるペレットストーブ又は薪ストーブの導入 |
| ③その他 | 上記の対象分野に属さない、創意工夫を凝らした独自の事業 |

詳細は県ホームページを参照してください。

福島県森林環境税

検索

森林環境交付金事業（森林環境基本枠）

古殿町における森林認証の取組について

古殿町産業振興課 林政係長 長岡 達己

当町では、自然環境と調和した持続的な森林経営の手法を広く普及するため、森林環境交付金における「森林の適正管理推進」に位置づけ、町有林においてSGECのFM認証を2017年3月14日付けで取得した。

当町の民有林面積は7,316haで、この75.3%にあたる5,512haがスギ主体の人工林で、県内一の人工林率を誇る。森林認証取得にあたっては、東京オリンピック・パラリンピックに向けた町のPRにもなることから、約60haの町有林のうち、県行造林や部分林を除いた約25haについて取り組むこととした。

認証の取得により材価向上は期待できないものの、世界的な違法木材排除の流れが強まっており、また外部からの監査が入ることで労働者の安全確保や自然環境への配慮といった点で現場の改善に資することが期待できる。

認証材の安定供給のためにも認証面積の拡大が今後の課題であり、今後は町有林を核としたグループ認証に発展させることを目指すとともに、木材産業関係者のCoC認証取得も支援していきたいと考えている。



森林環境交付金事業（森林環境基本枠）

木育推進事業（ウッドスタート）について

国見町産業振興課 課長補佐兼係長 実沢 隆之

平成28年3月5日に「ウッドスタート宣言」をし、調印式とあわせて誕生祝い品の贈呈式も開催した。

平成28年度国見町木育推進事業の取組みとしては、①木育キャラバンの開催②木育木工デザインセミナーの開催③木育木工製作セミナー④木育インストラクター養成講座⑤木育親子木工セミナー⑥木育おもちゃインストラクター養成講座を開催した。木育木工デザインセミナーでは、木工品や木のおもちゃのデザインを考える基礎知識を身につけることを目的とし、セミナーで学んだ成果として平成28年度の誕生祝い品の国見町オリジナルデザインを決定することを目指して開催した。平成27年度は製作期間の問題があり、東京おもちゃ美術館に委託して、町産スギ材を活用した木のおもちゃを製作した。平成28年度は、国見オリジナルデザインの誕生祝い品を製作するため、東京おもちゃ美術館に監修をお願いし、セミナー参加者の意見を基に誕生祝い品のデザインを決定した。

現在、国見町には、林業関係者や木工細工職人がいない状況である。そのため、木育などに関する経験や知識を持った人が限りなくゼロに近い状況であった。そのため、平成28年度よりゼロから木工細工職人の育成を図ってきた。今後の目標は、先にも挙げていた通り川上から川下までを目標に、林業業者や、材木屋の組織化に向け育成を図る。この点が、スタートにあたって苦労した点であり、国見町ならではの特徴であると感じている。



（誕生祝い品贈呈式）



（平成28年度誕生祝い品「あつかしコロコロ」）

森林環境交付金事業（森林環境基本枠）

新地町における森林環境交付金事業を活用した 森林環境学習の取組みについて

新地町農林水産課 主事 阿部 哲也

新地町は、福島県浜通りの最北端に位置し、町内では地域の生活に密着した里山や大径木からなる広葉樹林帯など多様な森林がみられます。

新地町では、平成18年から福島県森林環境交付金を活用して地元の小中学校に森林環境学習の場を提供しています。

今回は、二つの小学校の森林学習の取組みと町産業まつりにおける町民への間伐材利用PRについて紹介します。

駒ヶ嶺小学校では、フォレストパークあだたらで森林施業の間伐を学びました。（写真1）福田小学校は、森林観察を行い、町の森林と他の地域の森林との違いを勉強しました。（写真2）

町が主催する産業まつりでは、町民に間伐材を活用した木工製作を体験してもらい、間伐材の利用促進への理解が深まりました。（写真3）



写真1 駒ヶ嶺小 フォレストパークあだたら



写真2 福田小 鹿狼山観察



写真3 産業まつり 木エクラフト

森林環境交付金事業（森林環境基本枠）

いわき市における森林環境学習の取組内容について

いわき市教育委員会学校教育課 主任主査 大井川 英敏

いわき市では、森林が市土の約7割を占めており、市内の小中学校児童生徒にとって身近なものとなっている。身近な環境についての理解を深め、環境に対する責任と役割を自覚し、環境保全活動等に参加する態度及び環境問題解決の実践力を育成することが大切である。そこで、いわき市教育委員会学校教育課では、森林環境に主体的に関わる態度や、地域の自然を大切にする心情の育成に向け、次のような支援を行っている。一つは、地域や学校の実態に応じた体験活動を重視すること。もう一つは、地域の様々な自然を意識させる工夫や地域の自然環境等の教材化を図ることである。発表では、市内小中学校における森林環境学習の具体的な実践例を挙げながら、これまでの本事業の取り組みについて紹介する。



間伐体験（三和中学校）



木の皮の剥取体験（綴小）



森林散策体験（小川中学校）



木工クラフト体験（藤原小学校）

森林環境交付金事業（地域提案重点枠）

森林環境交付金事業（重点枠）を活用した 木造集会施設の整備について

白河市農林整備課 副主査 矢吹 護

白河市の集会施設は、多くの施設において築20～30年が経過しており、計画的な更新の時期を迎えている。本市において、平成24年度より継続的に森林環境交付金事業（重点枠）を活用し、木質化を図ってきた、17の集会所の実績について報告したい。

また、森林環境交付金事業の目的の一つに「森林環境学習の推進」があるが、本市においても、未整備森林の増加や、林業の衰退等、森林整備にかかる問題を抱えており、森林環境への意識向上を図っていく必要がある。そのため、森林に接し、考える機会を増やし、身近な問題として捉えていくことが必要ではないかと考えられるが、集会施設は住民にとって最も身近で、愛着を持って使用される公共施設であり、木とのふれあいから森林環境学習への興味・関心を持っていただくよう木質化にも取り組んだ成果について、平成27年に竣工した「旭町集会所」を事例に紹介したい。



森林環境交付金事業（地域提案重点枠）

ヤマザクラ1万本の里づくり事業

南会津町農林課 主事 赤松 了太

この事業は、オオヤマザクラの植栽・育樹による里づくりをとおして、森林の再生・保全を図り、地域の振興と交流人口の拡大を図るもので、植栽されたオオヤマザクラが成長し、大きく花を咲かせて初めて効果が現れる息の長い事業です。オオヤマザクラに彩られた里山を次世代に引きつぐ、将来に向けた地域づくりで、未来への贈りものを作っていくものです。

町内には多くのオオヤマザクラが自生していますが、中には色の鮮やかな樹種があることが知られています。優良樹の種を採取して栽培することにより、苗木作りを行っています。

植栽は、住民参加による植樹祭を行い、住民による景観づくりや憩いの場づくりを行っています。植樹した苗木には、記念として地場産材で制作した植樹者プレートを設置しています。

今後は、町内の小学校に種を配布し、地元苗を育て、町内に植樹していきたいと考えています。



（記念植樹）



（参加者全員で記念撮影）

森林環境交付金事業（地域提案重点枠）

会津・漆の芸術祭

会津若松市教育委員会文化課 主査 佐藤 崇

2010年から2012年まで福島県立博物館が中心となって、会津若松市・喜多方市を中心に、会津の文化資源である「漆」をテーマとして位置付けた芸術祭「会津・漆の芸術祭」を実施してきました。

その後、2013年から会津若松市が事業を引き継ぐ形で「あいづまちなかアートプロジェクト」を開催しています。このプロジェクトは前述の「会津・漆の芸術祭」と福島・会津が誇るアーティストの優れた芸術作品等を展示する「まちなかピナコテカ」を二本柱としています。（ピナコテカはイタリア語で絵画館を意味します。）

「漆」を活用した芸術作品を、まちなかにある蔵などの歴史的建造物や店舗、ギャラリー、公共施設等に展示するとともに、関係機関や地域と連携して、さまざまなイベントやワークショップ等を行い、漆文化の継承をはじめとした会津地域の産業の活性化や交流人口の拡大による地域活性化、ウルシ林の継続的な保育管理につなげることを目的として事業を展開しています。



（漆林見学会）

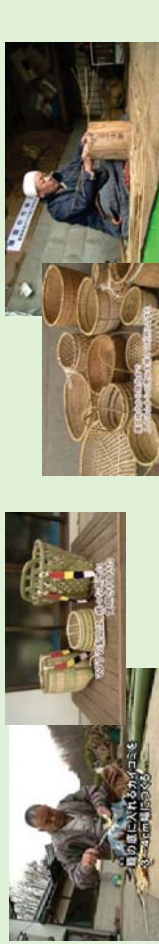


（漆を活用したアート作品の展示）

森林文化記録映像 — 森のくらし —

本県に引き継がれてきた森林文化を、次の世代に引き継いでいくため、記録映像に残し福島県のホームページにて公開しています。

第1章 ふくしまの竹と笹



里山の竹と奥山の笹を活かした編み具づくりの記録です。各作業工程の動作を撮影し、作業手順に沿った加工技術のポイントを記録しました。

【平成20年度撮影】



第2章 曲物



木の文化が育んだ技の一つである曲物づくりの記録です。檜枝岐の自然風景や民族文化を織り交ぜながら、曲物の材料づくりから加工まで一連の作業工程を記録しました。

【平成21年度撮影】



第3章 編み組細工



三島町の自然を背景として冬の手仕事として代々継承されてきた、つるの編み組細工の記録です。材料となるマタタビのつるを採取してザルを編む一連の作業工程を記録しました。

【平成22年度撮影】



第4章 山御講



相馬市立切集落に伝わる、飯館村佐須の山津見神社の山御講の記録です。東日本大震災の後、1年ぶりに行われた山御講の一連の様子を記録しました。

【平成24年度撮影】

全記録映像をYouTubeで公開中！

福島県森林文化
で検索！

QRコード→



第6章 アケビつる細工



自然豊かな只見町の森の恵みであるアケビつるを使った編み組細工の記録です。ザルの製作の一連の作業を、インタビュを交えながら記録しました。

【平成24年度撮影】

第7章 カジゴ焼き



かつて只見町では、晩秋になると各家庭で、原初的な炭焼きである「カジゴ焼き」を行っていました。今は絶えてしまったこの文化を、子どもの頃に手伝ったことのあるという皆さんに再現していただきました。

【平成25年度撮影】

第8章 野鍛冶



野鍛冶は、包丁や農具、漁具、林業の道具などを製作し、地域の人々の暮らしに深い関わりを持っていました。いわき市の現役の野鍛冶である長谷川昭三氏の、ヨキ（斧）と木廻しを作る一連の作業の様子を記録しました。

【平成25年度撮影】

第9章 わら細工



昔の生活では、わらでできた様々な道具を使っていました。山仕事など使われていた風物道具である「ジンベイワラジ」を作り方と、わらを縛う技術を子どもたちに伝える様子を記録しました。

【平成25年度撮影】

第10章 上川崎和紙



二本松市上川崎地区に伝承されている手漉き和紙の記録です。材料の楮の加工と、流し漉きで紙を漉く様子を記録しました。

【平成26年度撮影】

第11章 木を伐り活かす



南会津地方では森林の伐採、搬出、自然への感謝、作業の安全祈願などを「山元」という専門職人が行っていました。伐倒という作業を通して、伐採技術の変遷、形は変わっても継承されているしるしなど、自然とのかかわりの中で継承されている森林文化を記録しました。

【平成27年度撮影】

第12章 会津鋸鍛冶

(会津若松市 五十嵐征一氏)



【平成27年度撮影】

会津若松市相生町で、鋸製造、目立てを引き継ぐ会津最後の鋸鍛冶の記録です。製造工程とともに、代々受け継がれてきた熟練の技を記録しました。

第13章 吊るし伐り

(南相馬市 渡部福与氏)

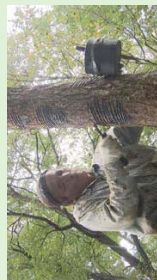


【平成27年度撮影】

樹木伐採の手法として、吊るし伐りという熟練の作業技術を持つ渡部福与氏が行う伐採作業を、その工程とともに記録しました。

第14章 漆掻き

(喜多方市 秋葉良榮氏)



【平成28年度撮影】

漆の塗り師でもある秋葉良榮氏を取り組んでいる、漆の樹液を採取する漆掻きから漆液を精製するまでの作業までの技術の継承を記録しました。

第15章 漆蠟

(大沼郡金山町 和ロウソク復古会)



【平成28年度撮影】

昭和30年代後半に途絶えた、漆蠟から和ロウソク作りまでの技術を再現・伝承に取り組んでいる大沼郡金山町の「和ロウソク復古会」の活動を通して、漆蠟採取・和ロウソク作りの技術を記録しました。

第16章 ふくしまの森林文化

(福島県民俗学会 佐々木長生氏)



【平成28年度撮影】

福島県の地域構成及び森林の概要と福島県特有の樹種樹木を紹介するとともに、各地域で現在までに引き継がれている森林文化について、福島県民俗学会会長 佐々木氏の解説を通して紹介します。

全記録映像をYouTubeで公開中！

福島県森林文化

で検索！

QRコード→



福島県森林環境税 facebook

はじめました！

福島県森林環境税を活用した取組や、 イベント情報を発信します！



検索

フェイスブック 福島県森林環境税

公式サイト名：福島県森林環境税

https://www.facebook.com/fkankyo/

福島県森林計画課